発行：株式会社パレード

「ああ天翔けしわが人生」永井麗子ものがたり

令和５年(2023)9 月 5 日　　著者：富加見絹子

永井麗子は親の愛を知らずに幼少時代を乗り越え、激しい戦火を生き抜き、老舗旅館の女将として、昭和天皇をもてなした女性。
本書は、きわめて個人的なものがたりであると同時に、戦中・戦後を生き抜いた、数多くの同時代人の生とも共振する〈みんなの昭和史〉でもある。

書跡の帯書より

麗子は昭和 4 年に生まれ、継母の元で多感な思春期を過ごした。昭和十六年太平洋戦争が勃発し、日本は全面戦争へと突入していった。学校では、軍歌の練習や竹やり訓練をさせられた。（右写真）ルーズベルトやチャーチルに見立てた藁人形を竹やりで突いていた。ラジオでは日本が勝っているような報道ばかり。「欲しがりません、勝つまでは」「ぜいたくは敵だ」空襲警報のサイレンが鳴るたびに防空壕に隠れる。最初は、壮健な男子だけが徴兵されていたが、ついに病人、年長者にも召集令状が届き、日の丸旗を持ち出兵していく兵隊さんを見送り、遺骨となって帰る戦没者の白木の箱を出迎える日々が続く。女学生も就労に就き軍需工場で働き工場に爆撃をうけ多数の友が亡くなった。昭和 20 年鹿児島大空襲の中，命からがら遠い親戚の家にたどり着いた。

昭和 20 年 8 月終戦。

昭和 25 年結婚。靴商運営。夫の伯母が昭和 5 年旅館「岩崎谷荘」を創業していたが空襲で焼失し昭和 23 年再建。昭和 32 年旅館を夫が引き継いだ。麗子は未知なる世界に飛びこみ女将就任した。

翌 33 年天皇陛下を迎えることとなった。宮内省からの依頼であり、準備も微に入り細にいる入念さで料理はすべて 2 時間前にチェックがあり、また天皇陛下に関することは一切他言無用だった。

皇族や芸術家らも泊まる昭和の名旅館となった。平成 2 年都市計画による城山トンネル建設が契機に閉館した。

女子児童の薙刀訓練

国防婦人会の竹やり訓練

写真提供：奈良市立鼓阪小学校

掲載の写真は奈良県立図書情報館今昔 WEB より